

第1回 浜坂温泉保養荘のあり方検討会 議事要旨

- 1 日時 令和6年11月19日(火) 14:00~15:00
- 2 場所 県庁1号館7階会議室
(オンライン併用のハイブリッド方式)
- 3 出席者
谷口 泰司 委員、東鬼 正明 委員、福田 庸二 委員、松本 晃 委員、福井 崇弘 委員、
庄 宏哉 委員、野田 誠一 委員、長友 幸一 委員
- 4 議題
 - (1) 検討会の目的と進め方について
 - (2) 浜坂温泉保養荘の概要について
- 5 事務局から資料に基づき説明を行い、その後、委員から意見を伺った。委員からの主な意見は以下の通り。
 - ・ 当該施設は、昭和58年に国際障害者年を記念して整備されており、当時としては画期的・先進的なバリアフリー設計の施設であったと思われる。
 - ・ 当該施設には障害者更生センターという役割があるため、ある程度低廉な価格で宿泊サービスの提供を求められてきた。
 - ・ 資料は直近10年間の状況を整理しているが、平成18年の兵庫県社会福祉事業団への運営移管後、県の運営補助のあった最初の3年間だけが黒字で、その後は赤字が続いており、事業団全体の運営上も大きな課題となっている。
 - ・ 社会福祉法人は、社会福祉事業や公益事業の経営に充てることを目的とする収益事業であれば運営できることとされている。当該施設の収支の状況を考えるとどうなのか、ということが一つ論点となるのではないか。
 - ・ 当該施設には、保養施設としての役割と、身体障害者更生センターとしての役割という2つの顔がある。これら役割をどう果たしていくかということを含めた検討が必要になるのではないか。
 - ・ 観光全般はほぼコロナ禍前に復しており、コロナ禍前の6~7割しか戻っていないというのはあまり聞かない印象である。
 - ・ 県ではユニバーサルツーリズムの推進に向けて各種の取組を進めている。当該施設には「ひょうごユニバーサルなお宿」に十分なスペックがあり、研修施設や体育館のような設備もあるので、これらもうまく活用してやっていけないかと感じた。
 - ・ ユニバーサルツーリズムの動きはとても大事だと思う。このような取組により、単に観光客を受け入れるというだけではなく、従事する人の意識も変わり、ひいては観光だけではなくその地域が変わっていく契機になり得るという意味でも非常に大事な取組みであると思う。

- ・ 観光全体では9割戻っている中、当該施設では、過去には4割だった稼働率が、3割程度にしか回復していない。例えば立地条件など、現地視察を踏まえた意見交換が大事になると思う。
- ・ 町内では、湯村温泉はほぼコロナ前の水準に戻っており、浜坂温泉が少し低い状況なので、当該施設のおかれた状況がやや厳しいということもあるのではないかな。
- ・ 町内の体育館やコミュニティセンターといった施設の利用状況を見ると、地域の住民の活動の回復が、観光に比べて遅い印象であり、高齢の方の活動が再度活発になるのに時間がかかっている可能性がある。
- ・ 宿泊以外の部分でも地元の方が利用している施設なので、その戻りを頑張るという取組も必要ではないかと感じる。
- ・ ユニバーサルツーリズムの地域のフラッグシップのような存在と感じている。今後どういう形になるかは分からないが、今の段階では、湯村温泉で展開しているユニバーサルツーリズムの取組を浜坂温泉や七釜温泉など全町に広げていきたいという中で、一緒に協力しながら、しっかりやっていきたいという思いがある。